

2011 年度

東邦大学看護学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム(5月)

渡航報告書

目次

1. 渡航者
2. プログラム日程
3. 渡航者の報告

国際交流委員名、作成月日など

1. 渡航者

高木 廣文 看護学部長（国際保健看護学研究室）

岡田 敦子 教授（外国語研究室）

2. プログラム日程

月日	時間	内容	備考
2011年 5月28 日(土)	20:40	洛陽到達 牡丹城澳門食街 夕食	MU5227 北京→洛陽 21:05 到達 友誼賓館泊 趙傑剛(教務副課長)出迎
5月29 日(日)	07:00-07:40	朝食(友誼賓館)	
	08:00-09:30	自由活動	
	10:10-11:10	高木学部長 講演 総合ビル3階 学術交流ホール 「日本の看護教育について—東邦大学を例として—」	趙傑剛通訳
	11:10-11:50	岡田教授 講演 総合ビル3階 学術交流ホール 「看護大学における語学教育」	趙傑剛通訳
	12:00-13:00	昼食(西湖春天)	王宏運(副院長)、 李群(事務局長)、 王朝娟(看護部長)、趙傑剛等
	15:00-16:00	共同研究についての話し合い(総合ビル3階小会議室)	王宏運、趙傑剛
	16:00-17:00	買い物(盛徳美スーパー) 薬局見学	趙傑剛
	18:00-20:00	歓迎パーティー(新友誼大酒店)	馮笑山(院長)、王宏運、李群、王朝娟、趙傑剛、史素玲(看護副部長)、袁景如(看護副部長)

5月30日(月)	08:00-09:00	朝食(新友誼大酒店)	
	09:00-17:30	高木看護学部長：天子駕六博物館、古墓博物館、隋唐城移籍植 物園観光 岡田教授：竜門石窟、関帝廟、白馬寺観光	趙傑剛、帳素梅/ 日本語ガイド魏い さん
	18:30-20:00	送別パーティー(美ろん大酒店)	田曉宇(副院長)、 李群、王朝娟、趙 傑剛、史素玲、袁 景如、劉花軫(看護 師長)、賈竹敏(看 護師長)、秦二英 (看護師長)
5月31日(火)	08:00-09:00	朝食(新友誼大酒店)	王朝娟 趙傑剛
	9:00	洛陽空港へ(10:25 洛陽→北京)MU5696	王朝娟 趙傑剛

3. 渡航者の報告

河南科技大学医学院との交流を終えて

看護学部長 高木廣文

5月28日（金）から31日（火）の3泊4日の日程で、洛陽にある河南科技大学医学院を訪問した。羽田から北京行きの便があるので、東邦大学からのアクセスはよくなったのだが、北京－洛陽間の発着便は多くなく、北京では7時間待ちというかなり時間をもてあますため、実質的には中二日が活動できる日程であった。

今回の訪問は、米国の某大学から訪問に来るのでその日程で来てくれないかという、河南科技大学からの依頼に応えたものである。しかし、実際には米国からの訪問団と交流する機会は我々には用意されておらず、この点は若干残念であった。洛陽での我々の活動日程については、事前には知らされておらず、せいぜいが1時間程度の講演を行うくらいの知識しか与えられていなかった。中国との交流においては、日程を確定するのが極めて困難であり、直前にならないと決まらないのは困りものであるが、国際交流において留意すべき点でもある。

28日の夜に洛陽に到着後、趙傑剛先生らのお出迎えを受け、遅い夜食を食べながら、翌日からの日程を確認し、長い移動日が終わった。

29日（土）は、午前中に河南科技大学医学院にて講演を行った。私は、日本の大学における看護教育について、指定規則での枠組みと各大学の独自の教育という点から、東邦大学での看護教育について説明を行った。岡田先生は、日本の看護教育における英語教育ということで、ご自分の調査結果を交えて解説していた。

午後からは、趙先生と現在行っている共同研究について、打ち合わせを行った。現在、趙先生とは日中両国の看護教育の比較研究を行っているが、今後の研究の進め方について協議した。「中日両国高等護理教育人材培養模式的比較研究」および「中日両国高等護理教育課程設置的比較研究」のテーマで申請した研究計画が、河南省から認可されたとのことで、趙先生との共同研究を今後も同様に継続していくことになった。



夕方は、歓迎会を馮病院長のもとに盛大に開催していただいた。洛陽は古代から歴代王朝の都だったので、食事は極めて洗練されていて、一般的な中華料理のイメージではないおいしい料理が沢山出てくるので、楽しみの一つでもある。ただ、乾杯好きな国民性なのか、白酒（焼酎の一種、アルコール濃度 55%程度）で何度も乾杯するので、なかなか大変である。



翌日は、岡田先生とは別々に洛陽の市内と周辺の視察兼観光であった。月曜のため閉まっている場所もあったが、私は三度目なのであまり時間をかけずに関林廟で判子を作って戻ってきた。夕方は、田副病院長が歓送会を開催してくれたので、また美味をご馳走になった。女性ばかりだったせいもあるのだろうが、あまり盛大な乾杯騒ぎもなく、無事に終了した。

31日は、東京への帰国のみなので、朝から空港に送っていただき、一路、北京、羽田と無事に帰り着くことができた。今回は、極めて短期間の交流であったが、今後の共同研究のための布石になればよいと考えている。

河南科技大学臨床医学院との国際交流報告

外国語研究室 岡田敦子

5月28日から5月31日まで河南科技大学臨床医学院を訪問いたしました。28日に羽田空港より出発、洛陽市には午後9時過ぎに到着し、31日の朝には洛陽を発ちました。実質2日間という短い訪問でしたが、初めて中華人民共和国の本土を訪問した私にとっては、大変貴重な体験となりました。

29日には、「看護大学における語学教育」というタイトルで、中国の様々な省からいらした、約360人の看護師の方々に講演をいたしました。東邦大学の英語および、第2外国語のカリキュラムの説明、東邦大学大森医療センターに勤務している看護師を対象として行った、語学に対する意識調査の結果を中心に話しました。この調査では、多くの看護師が英語、および他の外国語の必要性を強く感じており、時間があれば外国語を勉強したいと考えている、という結果が出ています。翌日、通訳をしてくださった趙先生より、河南科技大学臨床医学院の付属病院の看護師たちも、英語の必要性を感じているので、これを機に、是非、英語のレッスンを導入したい、というお話をうかがいました。



講演の様子



付属病院のVIPルームにて
酸素吸入をしている様子

30日は、世界遺産として登録されている竜門石窟をはじめ、白馬寺、関帝廟などを観光しました。200年以上もかけて作成された仏像を目にし、人間の創造する力に圧倒されました。ところによっては、京都にも似た風景を目にし、日本文化は中国の影響を多大に受けている、という事実も再認識しました。何十年も前に歴史の授業で学んだ、遣隋使や遣唐使などの話を思い出しながら、楽しく観光しました。

29日の歓迎会そして30日の送別会では、洛陽の食文化も堪能しました。様々な食材が使われていて、そのおいしさは、今まで経験したことのないものでした。香港、横浜やサンフランシスコの中華街など、中華料理に目のない私は色々な機会に中華料理を食べているのですが、洛陽ほどおいしいものを食べたことはありません。また、味ばかりでなく、

盛りつけや器の洗練された美しさにも驚きました。かつて都であったという文化レベルの高さは、現在もそのまま受け継がれているのだな、と改めて感じました。

正味2日という、短い滞在でしたが、中国の明るく、聡明な看護師の方々との交流、そして歴史や食に触れるなど、多くのことが凝縮された豊かな時間を過ごすことができたことを大変嬉しく思っています。今後、益々交流が活発となり、両国の看護教育がさらに発展していくことを願っています。

国際交流委員会

委員長 近藤 麻理
副委員長 岡田 敦子
委員 松永佳子
佐山理絵
三條真紀子
中澤千佳

発行日 平成23年7月25日

発行 東邦大学看護学部看護学科 国際交流委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20

TEL 03 (3762) 9881